

古城址めぐり



「篠尾城」

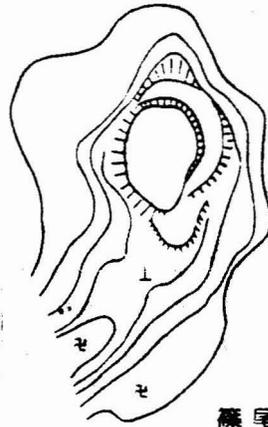
篠尾城は天満神社と正覚院がある天神山の峰続きの篠尾山（標高二九・二米）にありました。

城址の最高所の一部がわずかに残されているのみで、中央部は墓地に周辺部は畑地のため段状に削平されており、城の遺構については全くわかりません。

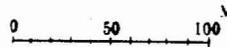
しかし昭和五七年頃までは、最高所の壇約二三〇平方米、二の壇約一七〇平方米の平壇がありました。後世に改変された可能性があり城の遺構と確認できませんでした。

大永三年（一五二三）銀山城（祇園町）の武田光和らの後援により、篠尾城に入った友田興藤を攻撃せんと山口の大内義興は、大永四年（一五二四）春大軍を率いて安芸に入りました。

篠尾城を取り巻く篠尾城には、家臣の吉見三河守頼興ほか杉、内藤氏



篠尾城址
(昭和57年頃)



が陣取っており、岩戸尾城と共に戦時に設けた攻囲陣営の城々だったのでしよう。

以降文献史料がないのでわかりませんが、篠尾城を守るための陣営の城ではないでしょう。

【芸備日報】記事より

明治一九年八月五日付

◎堤防破壊せんとす 佐伯郡廿日市駅の新開は去る二日の高潮に堤防既に壊裂せんとするに至りしが農民はスワと云うより鐘を鳴らし太鼓を打ち多数の人の助援を求めしがは我れも我れもと出て来り漸くにして防ぎ止めたりと。

明治一九年八月五日付

◎郡役所新築 佐伯郡役所は今度新築さるゝことに決し既に其工事に着手ありさり。

明治二〇年八月二日付

◎人力車 本県営業人力車取締規則の発令あり昨日より実施せらるゝことなるが佐伯郡五日市・廿日市・地の御前辺の従来営業者は昨日までまだに一名の願出でもせざりし由なれば規則了解まで若く八方向の立っまでハ営業を中止する積りにや。